

日刊 磐城時報

福島縣石城郡平町新聞社 印刷 磐城時報社

第三校道路問題 明年に持越か

感情問題の犠牲となつて 迷惑を蒙る通學兒童

七萬圓の寄附承認され 四倉漁港修築決定

十數年の懸案解決 新妻町長將來の福利を語る

湯本、上遠野間 自動車協定

馬代金を 共謀で飲む

平四倉間の 乗合自動車協定

共通の乗車券を發行し 料金は往復四十錢

江田信號所に 客車停車の運動

尊族殺し公判

判任官と情を通じ 妊娠して警察署へ

俺の子供でないこと 男が飽くまで頑張る

江田信號所に 客車停車の運動

尊族殺し公判

消防組召集成績

準備公判

江田信號所に 客車停車の運動

尊族殺し公判

準備公判

準備公判

江田信號所に 客車停車の運動

尊族殺し公判

準備公判

準備公判

江田信號所に 客車停車の運動

尊族殺し公判

準備公判

準備公判

江田信號所に 客車停車の運動

尊族殺し公判

準備公判

準備公判

江田信號所に 客車停車の運動

尊族殺し公判

準備公判

準備公判

江田信號所に 客車停車の運動

尊族殺し公判

準備公判

準備公判

江田信號所に 客車停車の運動

尊族殺し公判

相馬支局通信

郷土讀本編輯 相馬郡教育會にては豫て協議中の郷土讀本も二十日中村第一校に委員會を開き愈々編纂する事となり編輯委員は平泉弘、荒春治、豊田秀雄、大谷實、佐藤留之助の五氏を選定した。右讀本は一冊二十五位として尋常五、六學年生に讀ましむるものである。

原町校運動會

來る廿五日夜之森グラウンドに於て秋季大運動會を開催。

蓄音器演奏會

原町大盛堂時計店蓄音器部主催にて來る廿六日午後五時より旭座にてコロムビア高級蓄音器にてコロムビアレコード演奏會を催し入場者は抽籤の上一等日蓄製蓄音器を始め五等蓄音器高級針一千本(一人)五等當選者に贈呈する等。

大歌舞伎開演

原町帝都クリーム特約店主催となり右愛用者慰安劇大會を催す事となり東京大歌舞伎市川座一行を招き來る廿五日より同町旭座に於て華々しく開演する等。入場料五十錢、小人二十錢、但しクリーム買上げの方は無料。

平町人事

出生 紺屋町當時内郷村小島簿重長女良子、紺屋町當時茨城縣松原町山村五郎三女かつ子
婚姻 埼玉縣南河原村細井喜久(二七)平町紺屋町山部正男妹山部光子(二三)
死亡 四丁目當時内郷村白水白土清太郎(五〇)

時報文藝

失戀 山井幽星
苦しき時に心から
悲しき時に心から
過去の思出心から
ちつと沈めて涙ぐみ
荒みきつた心になつたか
もうこんな心は捨てやう
やはり弱いわたしであるから
戀の姿のありし日に
迎ひし胸の炎にも
今は懐かしその姿
戀に心の奪はれて
苦しきときの心から
ちつと沈めて涙ぐむ

山里の秋 岩村薫夫
夜をこめて
草葉のかげに
なきすたの
あはれさよ
戀にかなしむ
哀れさよ
水の音
かすかに響く
やま里で
さびしさを
離れて住める
淋しさよ
町の灯が
落ちる木の葉に
ちらつれば
はるか麓が
いとし面影
思はれる

佛國マルソー會社元話
生葡萄酒
マルソー・フランク・白 1.10
マルソー・ルー・ジ・赤
良品にして安價賣行飛ぶが如し
西村屋藥局

毒校 腸胃
皮膚病 婦人病 淋病 十二指 腸胃病 胃性病
院醫科 院醫科 院醫科
(七〇一話電) 町町町平

榮共ト存共△
融金ノ易簡△
て蓄貯ノ味趣△
圖堅ト意誠△
會商 會商 會商
△縣所 △縣所 △縣所
△時何 △時何 △時何
△モデ △モデ △モデ
△會 △會 △會
△ス △ス △ス

貸家
平町新川町十七番地
商店向き(家賃十八圓)
同字新川町三十一番地
勤人向き(五圓五十錢)
同二階建(六圓五十錢)
同字新川町三十三番地
商店向き(一ヶ所)
御希望の方は左に御相談下さい
平町新川町
中野勇吉
電話百三十三番

一葉印刷所
改... 電話九三番
平町字仲町

カキ貝御料理
カキフライ
スナモリ
右之通り御案内申上ます
仕御料理 一の井
電話一六七番

北澤樂天全集豫約趣意書
秋もいよ／＼深くなりお互すみ心地よい時候になりました。さて今回我國漫遊會の泰斗として獨自の境涯に斷然異彩を放たれてゐる北澤樂天先生が一世一代の仕事として試みられた『樂天全集』が左記の方法で一般愛讀者各位に頒たれることになりましたが各位も御承知の通り先生は昨年八月佛國大統領の後援によりフランス、米兩國に於て同展覽會を催され、亦引き繼ぎ英、米兩國に於て同展覽會を催され、之れが爲め歐米の全天地に非常な人氣を拍し、我國漫遊會の權威を海外に知らしめたのである。先生の書想筆致には他の追従を容さぬ剛健と諷刺、發瀾さが畫面全体に溢れ、一点一角はすべて人生の縮圖を爲し、社會の羅針盤を形成し、一讀一閱は一閱ごとに人生裡面の生活内容が心行くまで無様に展開されて行くのであります。實に之れ世を明るく愉快に所謂人生行路の指針とも云ひつべきであります。

新革歌舞伎
御當地初御目見意に付
中村芝樂
中村小芝 三人兄弟
中村芝好
座一大
演出 松平鶴雲 東光
竹本浪太夫
當る十月二十二日午後五時花火合開演
入場料 大勉強 大人二十錢 小人十錢
時節柄 大勉強 小人十錢
聚樂館

父常松儀豫て病氣の處藥石効無
く十九日午後十時死去致候間御通知に代へ此段謹告仕候
追而葬儀は二十二日午後二時自宅出棺神式により
天理教墓地に於て執行仕候
昭和五年十月二十日
嗣子 三井文吉
親戚一同

亡父辰吉送葬の際は雨天惡路にも拘はらず遠路態々御會葬被成下且つ御鄭重なる御香奠を賜はり御厚志の段奉深謝候一々拜趨御挨拶可申上筈の處不取敢以紙上御禮申上候
昭和五年十月二十一日
男 篠塚平八郎
外親戚一同